

## 草津白根山の火山活動解説資料（平成 22 年 6 月）

気象庁地震火山部  
火山監視・情報センター

振幅の小さな火山性地震が一時的に増加しました。地殻変動には特段の変化はみられませんでした。湯釜火口内の北壁等では引き続き熱活動がみられています。

山頂火口から概ね500mの範囲では、ごく小規模な火山灰等の噴出に警戒が必要です。また、とこるところで火山ガスの噴出が見られ、周辺の窪地や谷などでは滞留した火山ガスが高濃度になることがありますので、注意が必要です。

平成21年4月10日に噴火予報を発表し、警戒事項を切り替えました（噴火警戒レベル1（平常）継続）。その後、予報警戒事項に変更はありません。

## 活動概況

## ・噴気など表面現象の状況（図1）

奥山田（湯釜の北約1.5km）に設置してある遠望カメラでは、湯釜北側噴気地帯の噴気孔からごく弱い噴気が時々観測されました。

湯釜火口内に設置してある東京工業大学のカメラでは、火口内に噴気は観測されませんでした。

## ・火口及び山体内の熱の状況（図2、図3）

東京工業大学の観測によると、湯釜火口内北東部の噴気地帯の地中温度は、2009年5月に急激に上昇し、その後も時々温度低下がみられるものの高温の状態が継続しています。水釜火口の北から北東側にあたる斜面では、引き続き熱活動がみられています。

## ・地震や微動の発生状況（図4、図5）

20日に湯釜火口周辺を震源とするとみられる振幅の小さな火山性地震が一時的に増加しました。

火山性微動は観測されませんでした。

## ・地殻変動の状況（図5）

GPS連続観測では、火山活動によるとみられる変動は認められませんでした。



図1 草津白根山 湯釜付近（左図）及び湯釜（右図）の状況（6月4日）

この火山活動解説資料は気象庁ホームページ（<http://www.seisvol.kishou.go.jp/tokyo/volcano.html>）でも閲覧することができます。次回の火山活動解説資料（平成22年7月分）は平成22年8月5日に発表する予定です。

この記号の資料は気象庁のほか、東京工業大学のデータも利用して作成しています。

資料の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図50mメッシュ(標高)』『数値地図25000(地図画像)』を使用しています（承認番号：平20業使、第385号）。

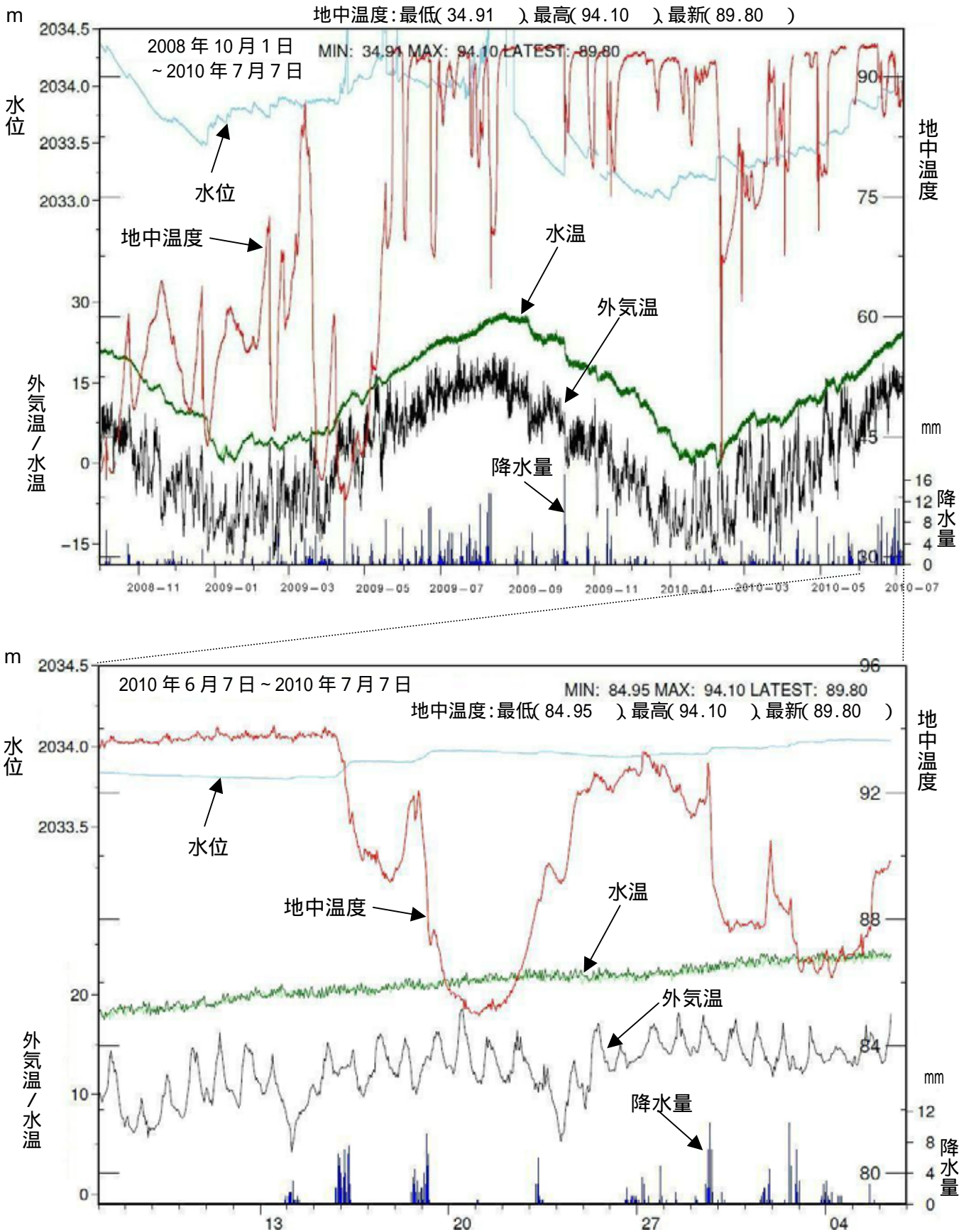


図2 草津白根山 湯釜火口内北東部の噴気地帯  
 地中温度、外気温・降水量・水位・水温(湯釜内)  
 (2008年10月1日~2010年7月7日、東京工業大学による)  
 上図: 長期グラフ(2008年10月1日~2010年7月7日)  
 下図: 短期グラフ(2010年6月7日~2010年7月7日)

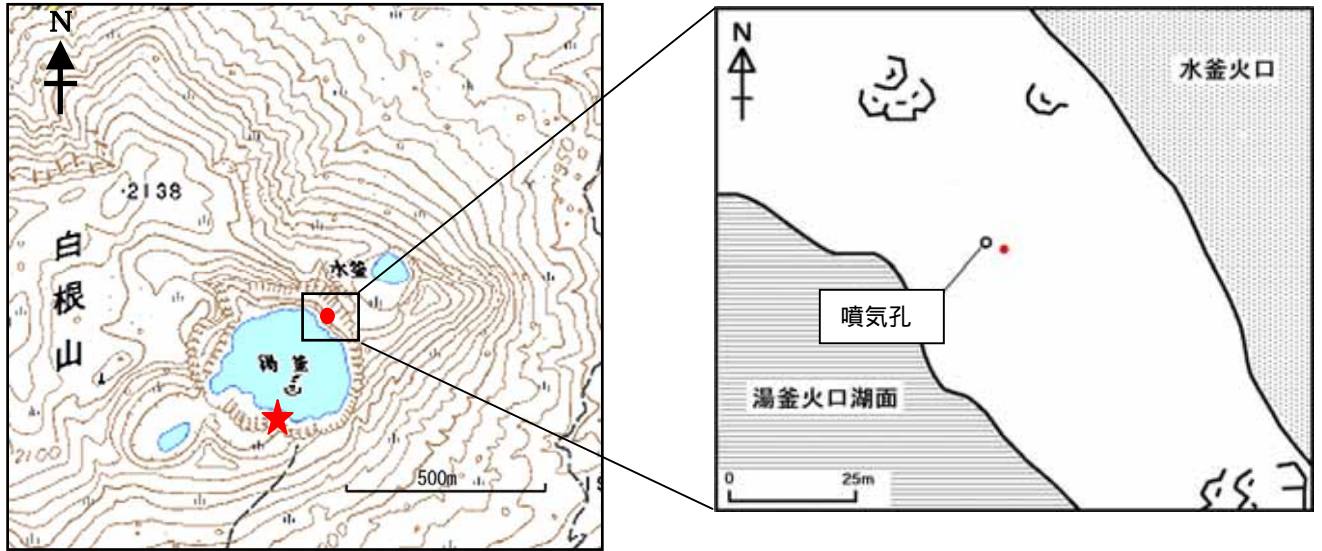
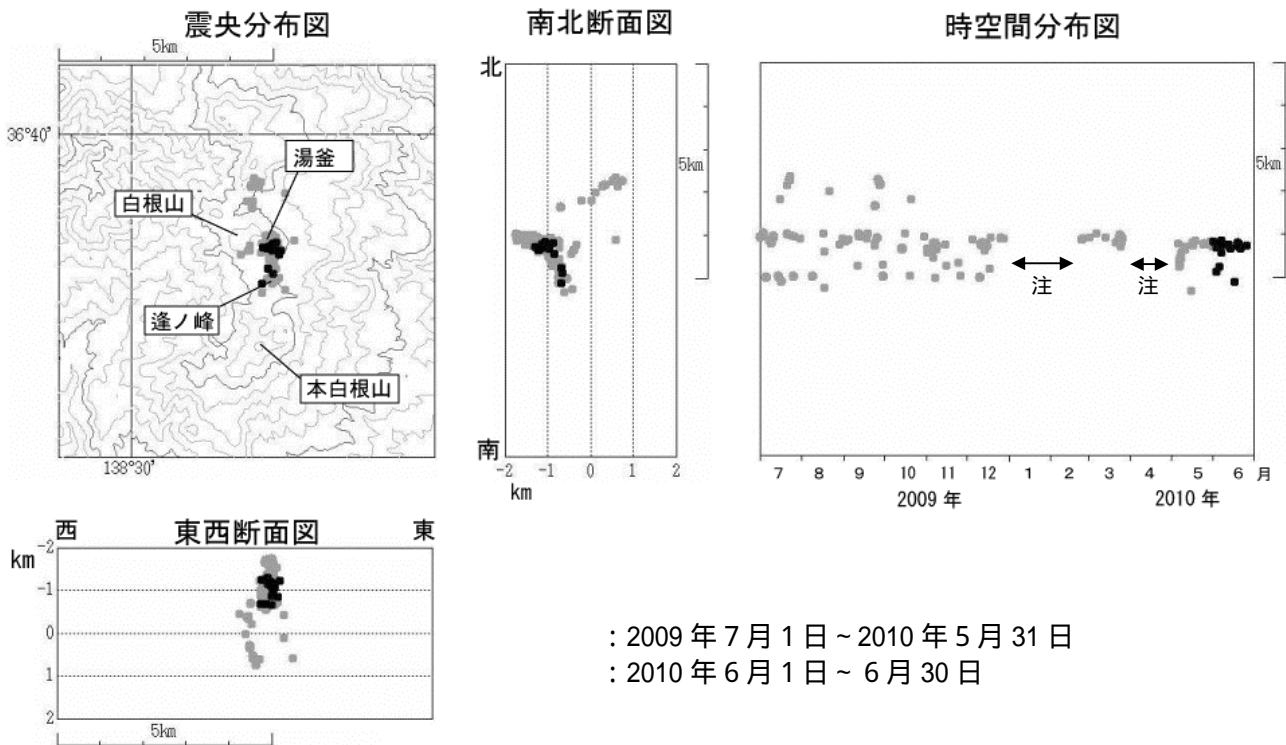


図3 草津白根山 火口カメラの位置と地中温度を測定した位置  
 : 図1(右図)の東京工業大学の火口カメラの位置  
 : 図2の東京工業大学による地中温度測定場所



: 2009年7月1日~2010年5月31日  
 : 2010年6月1日~6月30日

注) 一部の観測点が欠測のため、震源決定できなかった期間  
 (2009年12月18日~2010年2月22日 及び  
 2010年3月29日~5月5日)

図4 草津白根山 震源分布図(2009年7月1日~2010年6月30日)

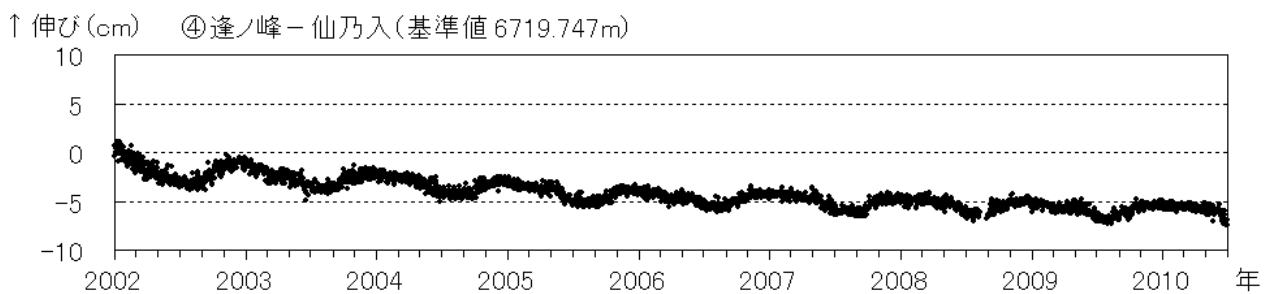
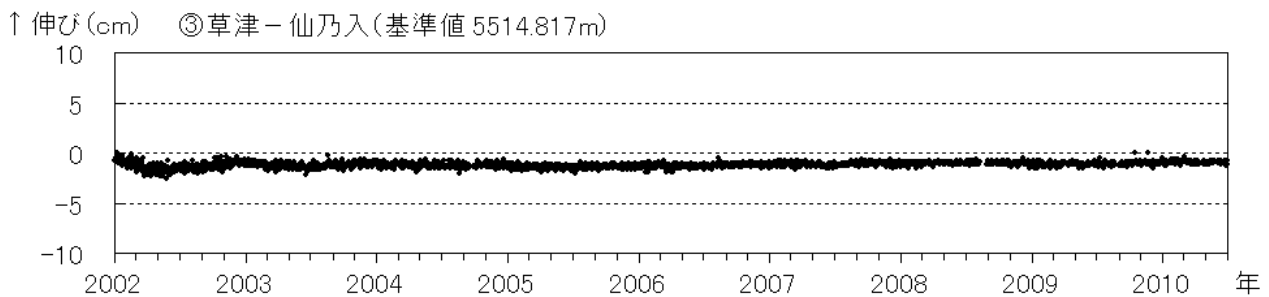
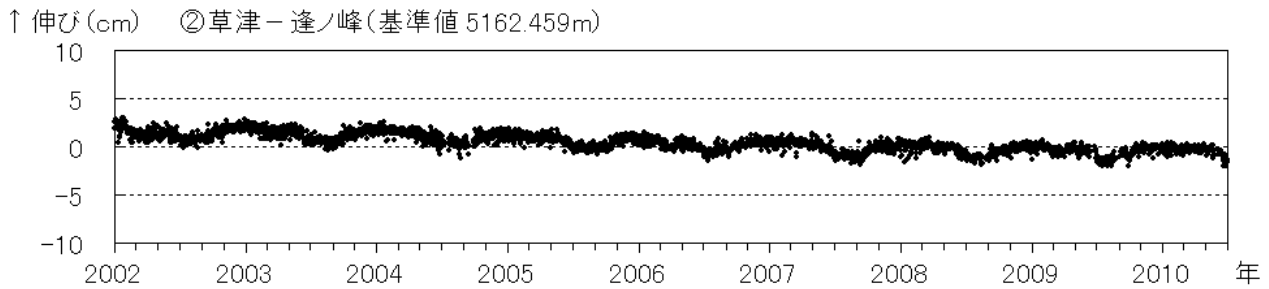
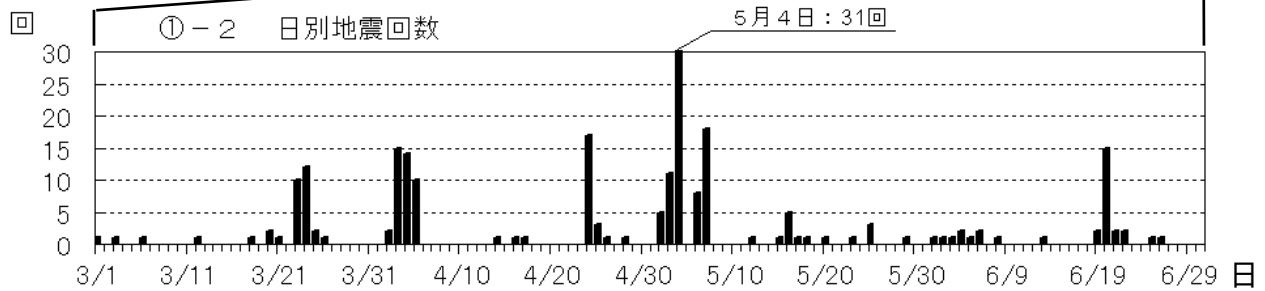
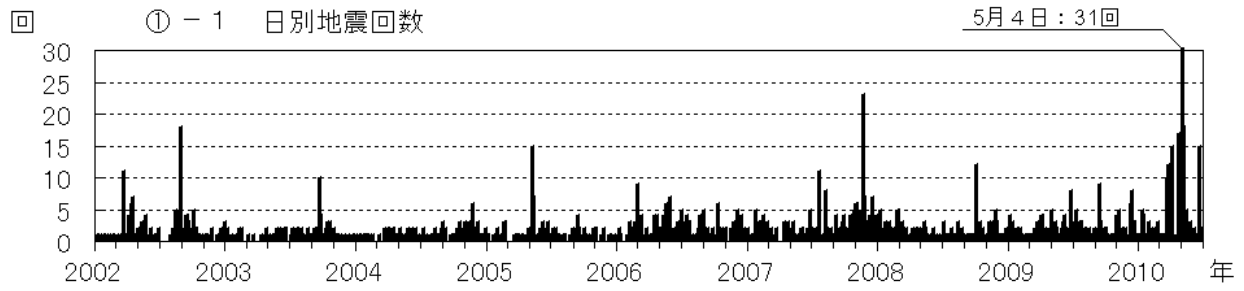


図5 草津白根山 最近の火山活動の推移(2002年1月~2010年6月)  
 - 1、 - 2 山体付近に発生した地震の日別回数  
 ~ GPS連続観測による基線長変化  
 基線長変化にみられる冬季の伸びと夏季の縮みの傾向は季節変動による変化です。  
 ~ は図6の ~ に対応しています。



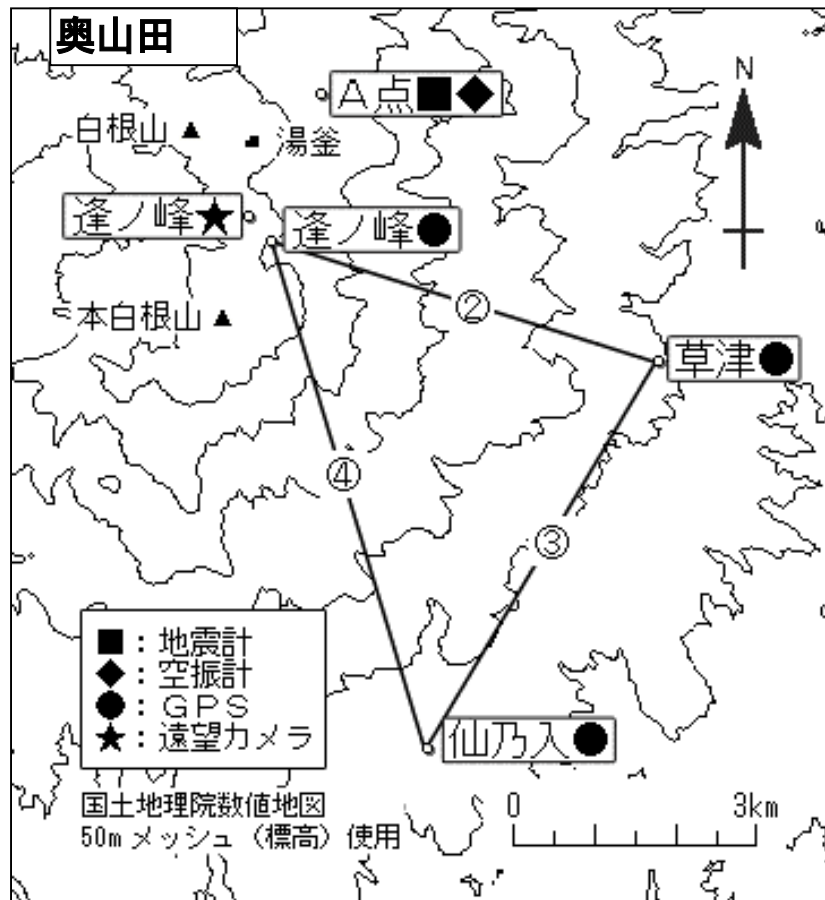


図6 草津白根山 気象庁の観測点配置図  
 (小さな白丸は観測点位置を示しています)  
 GPS基線 ~ は図5の ~ に対応しています。